

三重 PECS 研究会第 19回

～クラスでの実践発表 & 余暇支援の学習(久賀谷先生)～

日時	2018年1月 28 日(日)10:00～12:00
場所	三重県立かがやき特別支援学校 視聴覚室
参加人数	25 名
内容	<p>1.ケース発表「クラスの PECS の実践」</p> <p>●Yさん 中学部 1 年生の女の子のケース発表。</p> <ul style="list-style-type: none">・トランポリンや水遊び、音の鳴る絵本が好き。日常でよく聞く言葉の指示は理解できる。・移動教室へ行けなくて座り込んでしまったり、行事に参加できなかったりして悩んだ結果、PECSに行き着いた。フェーズ I はすぐ出来るようになった。 <p>△スケジュールに従って動く活動</p> <ul style="list-style-type: none">・自立活動のストロー通しでは、ストロー通しの課題が終わったら「できました」カードを先生に持って行くことで次の活動に移行する。 <p>△要求を出す活動</p> <ul style="list-style-type: none">・給食が好きなのでおかわりの要求をしてもらうことにした。赤いお皿と青いお皿に給食をのせて要求してもらっている。赤いお皿には好きなメニューを、青いお皿には嫌いなメニューをのせている。間違って要求することがある。・動詞の使い方がまだ分かっていないようで、「下さい」と「行く」カードがあると混乱することがある。「ぶれいる一む+下さい」「音の鳴る絵本+下さい」と要求してくることがある。 <p>△PECSの指導を始めて変わったこと</p> <p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none">・不安定になることが減った。変更に関わる生徒だったので、泣いたり、昇降口で座り込んだりする事が多かったが、その回数も減ってきた。・小学部を卒業してから中学部へ上がる事への環境の変化、クラスも2人から 6 名に増えること、トイレの場所、教室も 1 階から 2 階になることなど、心配していたがスムーズに(^_^) <p>(家庭)</p> <ul style="list-style-type: none">・ご飯カードを持ってくるようになった。持ってきてくれた時はとても嬉しかった。・今までは、長期休暇を落ち着いて過ごすことが出来なかったが、穏やかに過ごすことが出来た。・修学旅行も知らない場所でもスムーズに行くことができて嬉しかった。 <p>△今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・動詞の「行く・下さい」カードの弁別。・「赤・青」の色の弁別。・学校以外での般化。

●門先生・久賀谷先生から

(指導の工夫点)

- ・「強化子＋述語」の並べる順番が違う場合は行動連鎖なので、バックアップエラー修正を行う。弁別の間違いは行動単位なので4ステップエラー修正。分けてエラー修正をする。
- ・弁別がまだしっかりできていない。弁別のトレーニングをきっちりしてから文構成に入っていく。確実に出来ない内に次のフェーズには行かない。でも、それを意識しすぎると次のフェーズに行けないので80%くらいできたら次のフェーズへ。
- ・好きなもの同士の弁別学習は、本当に要求したい絵カードを選んだか、対応チェックをしっかり行う。
- ・2つの強化子の絵カードを同時に渡してきたら、すぐ対応チェックを行う。2つのものを同時に要求したい時もある。対応チェックでひとつのものしか選ばなかったら、4ステップのエラー修正を行う。

(家庭とのつながり・課題について)

- ・親御さんが嬉しかった時に、「学校ではこんなことも出来ていて、もっと「嬉しい」が増えますよ」などと、ブックを提供してみる。
- ・長期休暇や修学旅行を落ち着いて過ごせたという事は、コミュニケーションがとれて見通しが持てたという事。修学旅行で出来たことをフィードバックしてお母さんに伝えて、家庭でもらえそうなことを提案していく。
- ・担任の先生 5 人の先生と共通理解できたことが素晴らしい。校内で学習会を広げていったら、理解者が増えていく。PECS の指導も広がっていく。



2. 久賀谷先生からの「余暇支援の学習について」

●NPO法人 SKIP ひらかたの余暇活動について

△Hくんについて

- ・重度の自閉症スペクトラム、幼児期から PECS を使っていて学校でも使っている、属性語。コメントの練習をしている。

△1年目の取り組み(3年生)

- ・透明の財布に店員さんに「お金を出して、お釣りとレシートを入れて下さい」と書いてある財布を定員さんに渡す。
- ・フードコートで「待って」カードを置いてベルが鳴るまで好きな本を読みながら待っていた。初めてだったので、プロンプトで鳴ったらもらえる事を教える。

△2年目の取り組みについて(4年生)

- ・ファミリーマートで初めて、お財布からお金を出せた。大好きなアイスを購入。
- ・アイスを食べ終わった時に、前に座っている子がチョコを食べていたので「ちょこ下さい」と友だちに要求。優しい子だったので何回もくれた。子ども同士のやりとりできた。
- ・この頃から ipad を使うようになった。コメントも「トーマス見えた」などと伝えてくれた。

△3年目の取り組みについて(5年生)

- ・前回、たこ焼きを食べている友達に要求すると、1個はくれたが、2個めからは「自分で買って」と言われ断られた。2回目の買い物では、帰る時にたこ焼きを買って帰った。15分くらい焼き上がるのを待つことができた。

△スケジュールの移り変わり

- ・スタッフがスケジュールを持っていた → 自分で持って移動 → 4枚綴りへと変化していった。
- ・担任の先生にも見学に来てもらい修学旅行にもスケジュールを持っていった。

△余暇支援の秘訣

- ・視覚的に分かりやすい工夫 → 楽しみながら自主的に！
- ・適切な補助/代替コミュニケーション → 活動の広がり・仲間と楽しくコミュニケーション
- ・基本はその人にとって楽しいこと

●門先生より

△iPadについて

- ・iPad の PECS アプリの指導導入は、自発的な対人接近ができ、フェーズ4を習得してから取り入れていく。
- ・ブックの欠点は、カード作成を親や支援者に頼らないといけないこと。子どもたちの頭の中の語彙数が増えるのが早いので、カード作成が間に合わない。この欠点を iPECS は解消してくれる。自分で絵カードを探したり、撮影した画像を絵カードにしたりできる。より自立したコミュニケーションが可能。
- ・iPad の PECS アプリを使って買い物したり、外食したりする様子を動画で紹介いただいた。行きたい場所(あべのハルカス)のカードを自分で作成した様子も教えていただいた。